

海南市 地震ハザードマップ

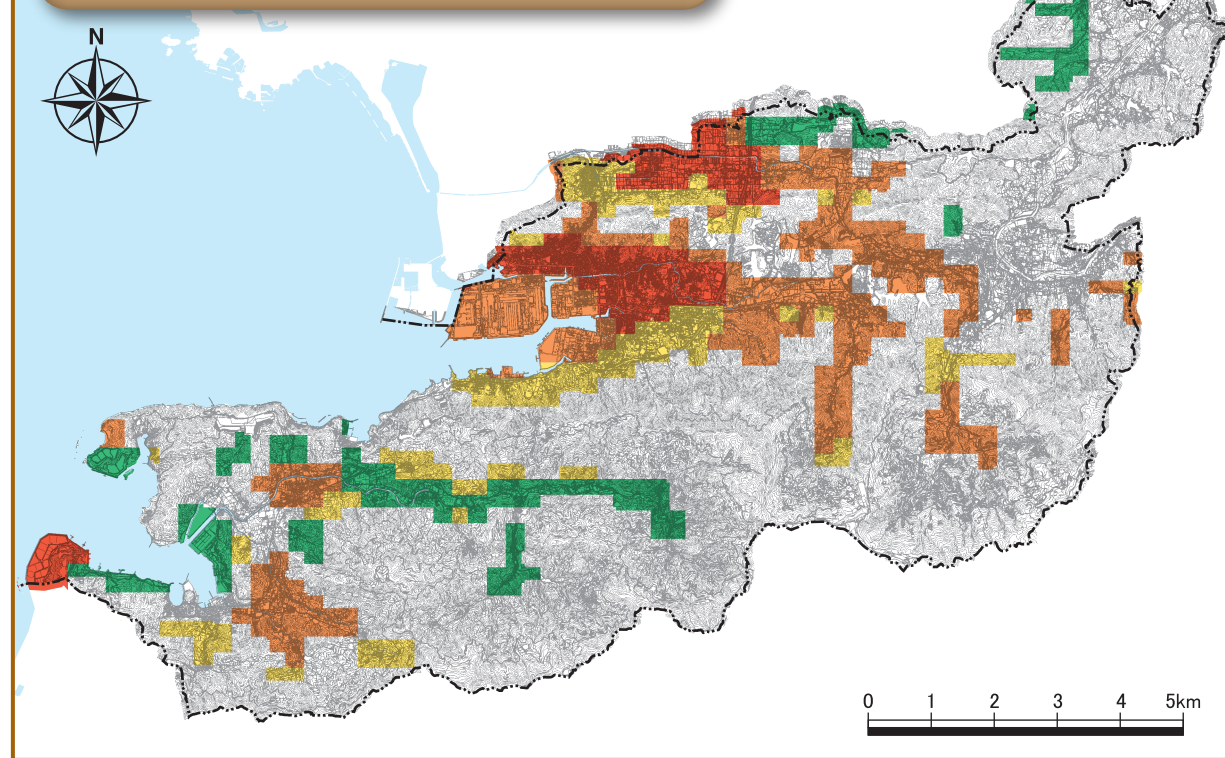
液状化危険度

想定地震

南海トラフ巨大地震

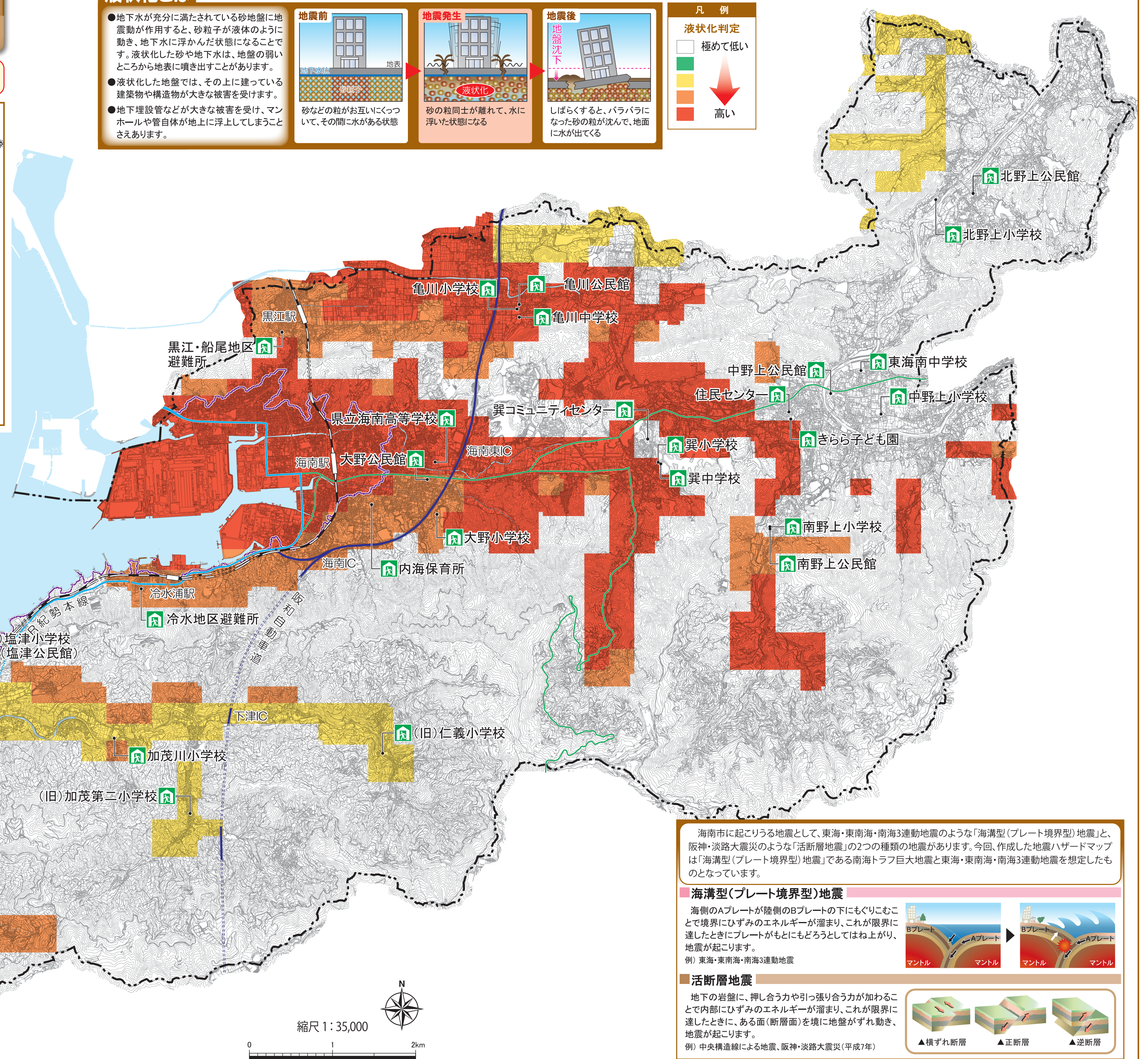
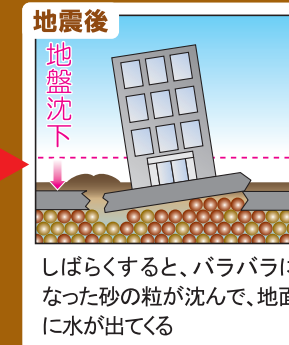
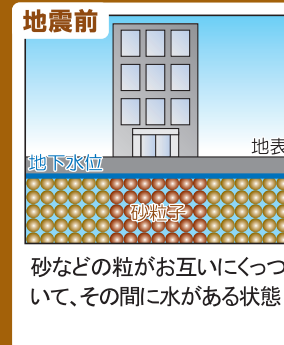
このハザードマップの液状化危険度は一つの想定にすぎません。
実際には想定通りの液状化が生じるとは限りません。地震に対する日頃からの備えを心がけましょう。

想定地震 東海・東南海・南海3連動地震

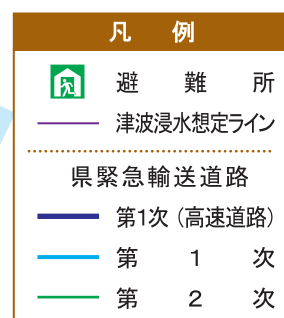


液状化とは

- 地下水が十分に満たされている砂地盤に地震動が作用すると、砂粒子が液体のように動き、地下水に浮かんた状態になることです。液状化した砂や地下水は、地盤の弱いところから地表に噴き出すことがあります。
- 液状化した地盤では、その上に建っている建築物や構造物が大きな被害を受けます。
- 地下埋設管などが大きな被害を受け、マンホールや管自体が地上に浮上してしまうことさえあります。



縮尺 1:35,000

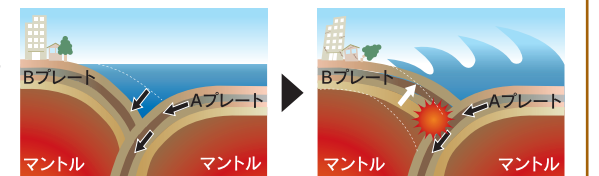


海南市に起こりうる地震として、東海・東南海・南海3連動地震のような「海溝型(プレート境界型)地震」と、阪神・淡路大震災のような「活断層地震」の2つの種類の地震があります。今回、作成した地震ハザードマップは「海溝型(プレート境界型)地震」である南海トラフ巨大地震と東海・東南海・南海3連動地震を想定したものととなっています。

海溝型(プレート境界型)地震

海側のAプレートが陸側のBプレートの下にもぐりこむことで境界にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときにプレートがもとにもどろうとしてはね上がり、地震が起こります。

例) 東海・東南海・南海3連動地震



活断層地震

地下の岩盤に、押し合う力や引っ張り合う力が加わることで内部にひずみのエネルギーが溜まり、これが限界に達したときに、ある面(断層面)を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

例) 中央構造線による地震、阪神・淡路大震災(平成7年)

